

資料2

# 国民向けのメッセージや宣言文 の検討と発信について(案)

平成23年8月3日  
第3回国際森林年国内委員会資料

## メッセージや宣言文の位置づけ

### ■ 位置づけ(案)

1. 国際森林年の意味することを今一度多くの国民に伝え、国民がそれらの重要性を知り、理解し、認識を深める機会とする。
2. 国際森林年を終えた来年以降も継続的かつ積極的に国民が一丸となって豊かな森林を守り育てていくよう意識の向上を図り、具体的な行動を促す。
3. 東日本大震災復興を通し、森林や木との新たな付き合い方を模索し具現化することの意義を伝える。
4. 各企業・団体・個人が共通の認識のもと、行動をするための指針になるようにする。

### ■ メッセージおよび宣言文の全体構成とその内容(案)

ネーミングにつき、実質的行動を促す力のあるものを検討。ex「行動指針提案」など

1. 考え方

メッセージや宣言等の位置づけや意味の説明

2. 前文

メッセージに至る森林・林業を取り巻く背景

3. 国民へ向けてのメッセージ・呼びかけ

国内委員会から「国民にしてほしいこと」(結論)を明確・簡潔に伝えるもの

4. 推奨する具体的な行動提案

3につながる推奨活動の提案

5. 宣言

国内委員の皆さんが応援団になっていくことの表明

## ■ メッセージおよび宣言文の発出までのプロセス(案)

1. 現状分析及びこれまでの意見の整理と確認

本会合にて対応出来ないか

2. 1に基づいて、取り入れるべき要素を類別・整理、ポイントの確認

3. 2に基づいて、事務方によりメッセージ等のたたき台を作成

4. 委員あて配布・回覧して大筋について了解

5. 記念会議での配布アンケートやパブリックコメントを通じて、一般国民の意見を照会。必要に応じて修正。

6. 各委員が再度確認し、発出を合意（第4回国内委員会、10月）

7. 10～11月上旬のしかるべきタイミング（翌年のアクションに向けた準備期間を見込む）で、国内委員名にて公表

# これまでの各委員からの意見

氏名 (敬称略)	内容	氏名 (敬称略)	内容
赤池学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林年を震災復興に役立てたその先の価値開発や社会啓発をどうしていくが重要</li> <li>・伝統や観光、産業とどうつながるのかも議論したほうがいい</li> <li>・自然エネルギーをどううまく活用するかも課題</li> </ul>	草野満代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず森林に「関わる」「親しむ」ということから</li> <li>・「木が使い物になっている」ことや、森との関わり方を知る必要</li> </ul>
天野礼子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林・林業再生は極めて重要</li> <li>・木質バイオマス燃料の活用、自然エネルギーで回していく</li> <li>・現代の参勤交代を推進していくべき</li> </ul>	C. W. ニ コル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の森にあった合理的で安全な木材伐採・木材利用ができる技術開発支援</li> <li>・本物のフォレスターを作してほしい</li> <li>・どんどん田舎に住みに来てもらえればいい</li> </ul>
飯塚昌男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川上での目標                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○人間社会と密接に連携した森林資源の整備</li> <li>○次世代の担い手が生活できる林業を営む</li> <li>○都市住民が都市生活を支える森林資源管理を支援</li> <li>○未来の担い手による森林の重要性の理解及び森林管理への積極的参画</li> </ul> </li> <li>・川下での目標                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○木材利用を通じて、国民生活の質の向上、安心・安全を確保</li> <li>○成熟期に入った国内森林資源の有効活用</li> <li>○資源状況(針・広)に応じた多様な製品化及び需要の開拓</li> <li>○生活の中に木の香る空間を広げる取り組みを促進</li> </ul> </li> <li>・グローバルな目標                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○地球環境を維持するため、森林機能を高度に発揮する森林を造成</li> <li>○森林の造成、管理のために必要な人材を育成</li> <li>○国際的森林資源の無駄遣い削減を推進</li> <li>○我が国がリーダーシップをとれるよう宣言を国際的にも発信</li> </ul> </li> </ul>	多田欣一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復興のシンボルとしての陸前高田市の一本松の保全活動のPR</li> <li>・震災で失われた500kmの松林の復興のアピール</li> <li>・国産材をもっと利用することが国内の森林や地域にとって必要なこと</li> </ul>
		仁坂吉伸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代の子供たちに、かけがえのない故郷の木や森を守り、よりよい形で引き継いでいく</li> <li>・森を育ててきた文化をどう伝えていくか</li> </ul>
		速水亨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに対する系統立てた森林教育の必要性</li> <li>・国産材が輸入材と比較して高くないことのアピール</li> <li>・国産材使用により森林が少しずつ良くなっていくことの理解促進</li> <li>・人工林でも生物多様性豊かな森であることの理解促進</li> <li>・日本人は森に入り森を見ることが上手くなく、森への理解を深める障害となっている</li> </ul>
		広瀬道貞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の森を知ってもらい、森を歩くことが重要</li> <li>・破壊を恐れず、森に親しむ観点での林道があっても良い</li> </ul>
出井伸之	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国産材がしかるべく使われる必要がある。木を使うことがポイントで、メーカーをうまく巻き込んで行ける仕組みを整える必要がある。</li> <li>・森についてのブランドビジョンが必要である</li> </ul>	宝月岱造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内でも世界でも生産林以外の森の方が広く、公益的機能への理解が深まる必要</li> </ul>
井上篤博	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外の木材利用と森林減少のミスマッチを国産材の有効活用を通じて改善。</li> <li>・合板は、震災後も工場がフル稼働すれば需要を賅える状況。</li> <li>・合板を生産しつづけ、木材を引き続き購入・使用していくことを通じ、現金を地元に戻し復興に結び付けられる。</li> </ul>	三村明夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災で他産業に比べて被害が少なかった林産業だからこそ、今こそインフラ等基盤整備が進めば、国産材ニーズは自然と上向くはず</li> <li>・復興には外材でなく国産材を生かすことが、雇用機会を生み出すはず</li> <li>・電力の供給難の観点でも、廃材をバイオマスエネルギーとして活用する機運も高まっている等、あらゆる面において頑張りどころ(事前説明時のご意見)</li> </ul>
大久保尚 武	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年の生物多様性年から引き続きで国際森林年に対応を継続してきている</li> <li>・森林保全に携わる企業は多いが、これらの企業活動は現在ばらばらであり、まとまりとして力を発揮できる状況にしたい(例:今回の復興における「緑の回廊」整備等)</li> </ul>	宮林茂幸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暮らしの中に森林を位置付けるということが大事</li> <li>・昔は、自然が育まれるように、人もその中で養われていた</li> <li>・「人づくり、森づくり、木づかい」ということがベース</li> </ul>
		養老孟司	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森と人間の関係が失われていることが根本的な問題</li> </ul>

## 宣言文の考え方(要素の整理)

メッセージや推奨される具体的な行動を引き出すポイントとして  
川上／川下×人づくり／森づくり／木使い、サステイナブル／グローバル、  
の視点での関係整理(案)

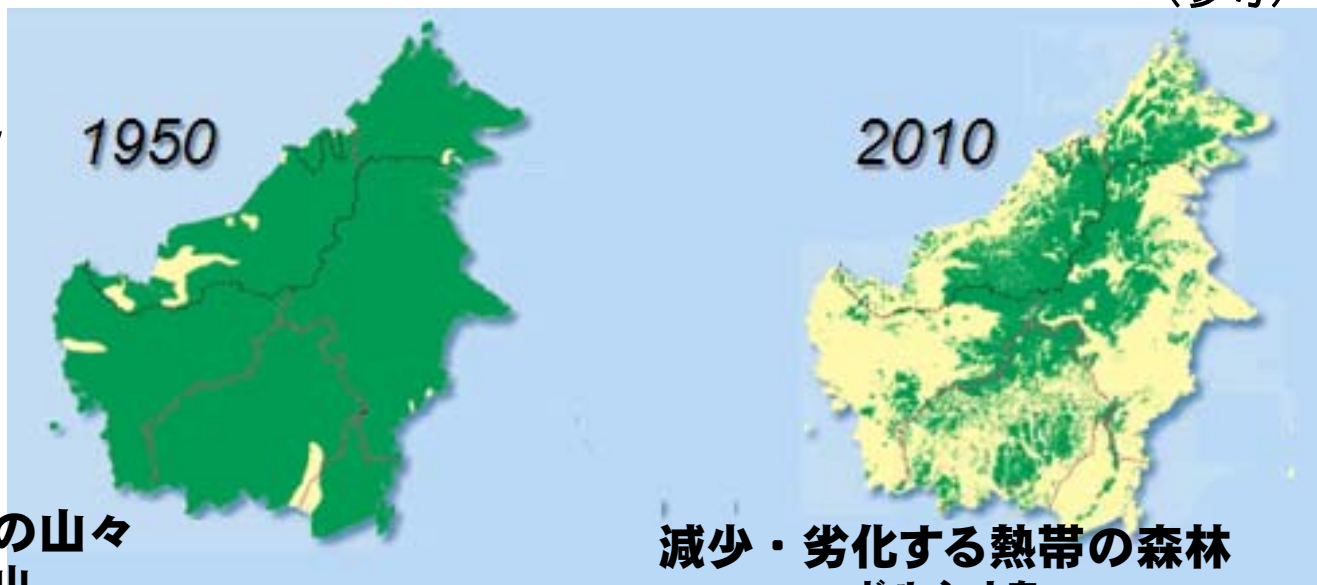
	川上に対して (山林所有者、林業家、山村住民)	川下に対して (産業界、経済界、都市住民)
人づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市からの交流者の受け入れ</li> <li>・真のフォレスターの養成</li> <li>・林業の担い手の養成とそのための生活環境整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼少期からの森林体験(親しむ・関わる→身近になる、森に上手に入れるようになる)</li> <li>・学校教育での「森林・林業の役割」の取扱い(知識)</li> <li>・農山村に行き交う機会(Wライフ)</li> </ul>
森づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グランドビジョンの構築と発信</li> <li>・生物多様性の豊かな森林づくり</li> <li>・森の管理のため及び森に親しむための小規模道の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人が森づくりに関わる情報・機会</li> <li>・業界が「まとまり」の力を発揮する工夫</li> </ul>
木づかい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で合理的に木材生産できる技術</li> <li>・森林資源を活かした産業の伝承と創出</li> <li>・メーカーとの協力(1次産業×2次産業)</li> <li>・緊急時に備えた都市向け資材のストック機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国産材に対する正しい理解(価格、意義)と選択</li> <li>・森林資源を活用したライフスタイルへの転換</li> </ul>
震災復興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働く場を提供するセーフティネット機能</li> <li>・世界が羨む日本づくりにおける魅力ある森づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用と林業収入機会創出に向けた、東北等地域材の確実な使用</li> <li>・多元エネルギー源としての木質バイオマス活用</li> </ul>



持続可能な社会の実現  
グローバルな森林保全

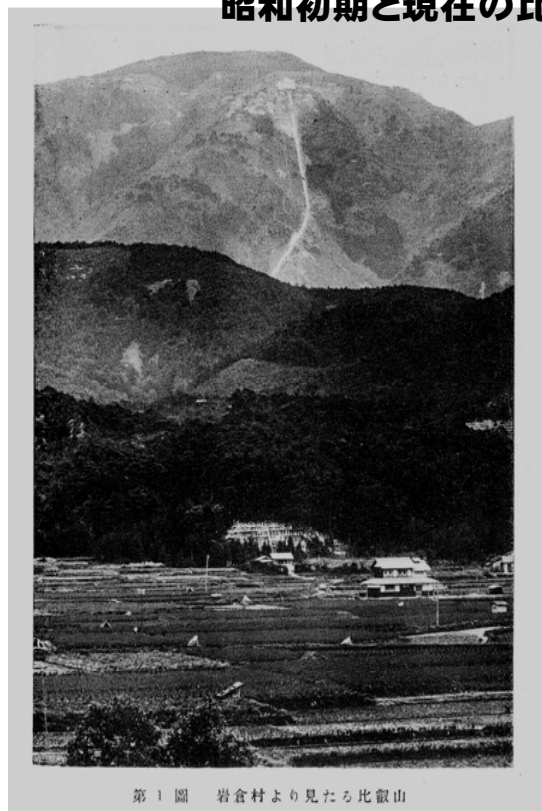
(参考)

## 国内外の森林の状況



**回復・成熟化する日本の山々**  
昭和初期と現在の比叡山

**減少・劣化する熱帯の森林**  
ボルネオ島



第1圖 岩倉村より見たる比叡山



日本の森林と世界の森林  
のアンバランス...

# 生物多様性の保全及び持続可能な利用を目指した望ましい森林管理のイメージ



# 日本の林業とドイツ、オーストリアの林業の比較

- ドイツは緩傾斜であるという地理条件を生かして、木材を生産しているが、日本と同様に急峻な地形にあるオーストリアは、路網整備により森林資源の利用のコスト縮減を実現し、木材の輸出国。
- 我が国でも、路網を整備し、林業機械の活用など低コスト化を推し進めることによって、林業・木材産業を成長産業・輸出産業に転換できる可能性。

**日本**

林内路網密度: 17m/ha

傾斜が比較的急で、路網密度も低

※ 白線が林内路網

森林面積	2,512万ha
木材生産量	1,760万m <sup>3</sup>
木材輸出量	70万m <sup>3</sup>

※ 日本の木材輸出量の多くが、紙・パルプ製品。

**自給率 : 28%**

**ドイツ**

林内路網密度: 118m/ha

緩傾斜な林内に高密度な路網が整備されている

森林面積	1,108万ha
木材生産量	4,810万m <sup>3</sup>
木材輸出量	2,920万m <sup>3</sup>

※ 木材輸出量には、丸太を輸入して木製品を輸出した量が含まれる。

**自給率 : 87%**

**オーストリア**

林内路網密度: 89m/ha

傾斜が比較的急だが等高線に沿った高密度な路網が整備されている

森林面積	386万ha
木材生産量	1,210万m <sup>3</sup>
木材輸出量	1,370万m <sup>3</sup>

※ 木材輸出量には、丸太を輸入して木製品を輸出した量が含まれる。

**自給率 : 100%**

# 木材利用の先進例

秋田県 大学図書館



埼玉県 町役場



北海道 育成牛舎



熊本県 コンビニエンスストア



工事用仮囲い

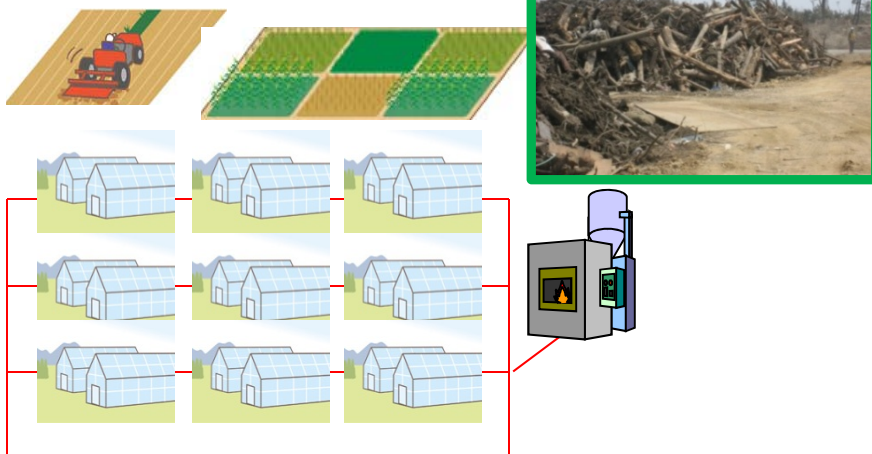


# 震災復興における木材・廃材利用イメージ

## 住宅地での利用



## 農業地域での利用



## 地域材利用の推進

仮設住宅建設  
住宅復旧



被災工場の復興



復興の好循環

雇用創出

